都道府県番号	４４
都道府県	大分県

（①□ ②☑ ③☑ ）

Ⅰ　学校名及び規模

姫島村立姫島中学校　　学力向上フロンティアスクール

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数	
学級数	１	１	１				１	４	１０	
児童数	３４	３３	３７				１	１０５		

Ⅱ　実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

・主題(テーマ)
「基礎学力を向上させる指導はどうあればよいか」
～個に応じたきめ細かな指導の追求を通して～
・テーマ設定の趣旨
生徒の実態をとらえ、個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善をすれば、基礎学力の向上がはかれる。

Ⅲ　実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

①学習指導研究部と生徒指導研究部の二部会を設置する。
②全国標準学力テスト（国･英･数）を受けることにより生徒の実態を把握する。
・標準以下の項目の弱点補強
③道徳、学級指導の実践
・学力向上のために、内面的指導

（ⅱ）実践研究内容

○国語科の少人数授業と全国標準学力テスト分析の取り組み

イ．全国標準学力テストの分析

１年 全国平均を下回っている。

① 標準得点においては、段階５の生徒の割合が少なく、段階４の生徒は多い。
② 段階１の生徒が１５％（５人）を占める。
③ 中領域では、全国比９０％以下の領域は、
「効果的な表現にすること」　８７％
「事実と感想の関係を押さえて読むこと」８２％
「語句の構成・由来の理解」　８８％
「漢字の読み・書き・送り仮名」　９０％である
④ 全国比１００％以上は、「語句の種別」１２１％である。
（注）成績を５段階に分けて得点の高い方を５、低い方を１としている

２年 全国平均を下回っている。

① 標準得点においては、段階５が、０人。段階４・３が少ない。
② 段階２が全国比の約２倍の５２％（１６人）であり、段階１は１３％（４人）であった。
③ 中領域では全国比９０％以下の領域は
「意図を理解し合って話し合うこと」６７％「書く材料の収集、吟味、検討」　７５％
「文章を推敲、批評すること」　７１％「文脈の中での語句の意味の理解」　８１％
「文章の内容把握や要約、情報収集」８８％「文章の構成や展開を把握すること」８２％
「主題・要旨の把握、見方・考え方」８４％「文の構造について理解する」　６３％
と、全体的に低い傾向にある。特に、「意図を理解し合って話し合うこと」と「文章を推敲、批評すること」「書く材料の収集、吟味、検討」の中領域が弱い。
④「単語について理解する」が全国比 112 ％であるが、全国通過率・本校通過率とも低い状態で全国的にも点数が取れておらず、指導の積み重ねが必要である。

３年 全国平均を下回っている

① 標準得点においては、段階４の生徒が少なく、段階２の生徒が多い。また、段階１の生徒は３％（１人）と少ない。
段階１の１人の生徒については、校内テストでは、平均点以上を取っており、全国標準学力テストと校内テストの相関関係を把握する必要がある。
② 段階２の生徒が、４１％（１５人）おり、全国比の１．７倍である。
③ 中領域では、全国比９０％以下の領域は
「文の組み立ての理解」　７６％
「漢字を正しく読むこと・書くこと」　８９％である。
④ 全国比１００％以上は、次の通りである。
「構成や展開を考えて聞き直す」１００％「書く材料の収集・内容の明確化」１０５％
「文章を推敲、批評すること」　１０２％「単語の活用についての理解」　１０３％

ロ．国語科の少人数授業実践例
（全国標準学力テストの分析を受けての基礎・基本を中心にした指導例）
1. ３年　国語　単元「故郷」　2. 単元目標… 略
3. 指導・支援の立場
・「自ら学ぶ力」を発揮するためには、学習指導要領に定められた各教科の「基礎・基本」を確実に身につけさせることが大切と考える。国語科では、漢字が読める、文の中身を理解できる、言葉の意味が理解できる等の「基礎・基本」が大切であるととらえ指導を行いたい。
4. 指導計画（抽出）　第二次・第三次・第七次…略
・第一次　ＣＤを聞き、初発の感想を書く　１時間　（１Ｃ２Ｔ）
・第二次　分からない言葉を図書館で調べる２時間　（１Ｃ２Ｔ）
・第四次　言語事項などを中心にした「基礎・基本コース」と読み取りを中心にした「心情曲線作成コース」にグループ分けをする。それぞれの項目にかける比重が少し違うことを理解し、不得意な方を選ぶようにする。
5. 指導上の配慮点
・教科書を読むとき、教師の判読をまず聞き、句点で区切って、順番に読ませていった。
・範読の際、読みにくい漢字や意味の分からない語句について、読み方を書かせたり、意味調べをさせた。
意味調べについては、時間に余裕のあるときは図書館利用をした。
時間がないときは、教科書ワークを用いて、意味を押さえた。
・新出漢字については、書き方を丁寧に指導し、熟語についても時間の許す限り指導した。
漢字小テストの予告をし、姫島中の課題であった家庭学習をさせた。傾向として、７割以上取るよう指導したが、７割以上の点をとった生徒は約６０％であり、今後の課題である。
・家庭学習については、何か課題がないと生徒も達成感がないので、教科書ワークを中心に宿題を出した。
その結果、１・２年生は、ほぼ全員宿題ができている。３年生は宿題ができていない生徒がいる。３年生については、国語係の指導をしていくと同時に、受験勉強との関係で負担が多いことも考えられるが、もう少し自主性を育てる必要を感じている。

○その他（英語科・数学科の全国標準学力テストの分析と指導の重点及び指導の取り組み）
英語科学力テストの分析及び指導の重点　（　２　年　）

◎　学年の学力分布状況（全体傾向をつかむ）
全国平均を下回っている
①　標準以上の内容
・聞くこと　全国平均に近づいている
②　標準以下の内容　（中領域で全国比 90%以下の領域は）
・話すこと「簡単な質問に応答すること」　７１％「正しい強勢で応答すること」６５％
・読むこと「正しい区切りで読むこと」７１％「語や語句を理解して文を読むこと」６９％
・書くこと「基本的な単語を正しく書くこと」４３％「正しい語順で英文を書くこと」３０％
③　学力向上を図る指導の重点
・聞くこと　聞き取りテストに力を入れる

・話すこと　　Ｑ＆Ａの機会をふやす
・読むこと　　基本的な単語や語句、文型、文のきまりなどが身につくように家庭学習に力を入れる
・書くこと　　単語テストの実施などの指導に重点を置く
④　分析をして、小学校に知らせること（どこでつまずいているか等）
・ローマ字に苦手意識を持つ生徒が多いが、中学校の英語教師がフォニックスの授業（音とつづり字の関係を学ぶ授業）をすると、ローマ字がスムーズに入り、中学校での英語の学習が取り組みやすくなる。

指導の取り組み
・「聞いて理解すること」ができるように、場面に応じてオーラル・イントロダクションを入れた。（聞くことの指導）
・基本文の定着を図るときに身近な場面を設定し、自分の立場にたって対処する場面を設定した。（話すことの指導）
・範読を聞く→わからないところにはふりがなをつけさせる→後につけて読ませる→個人で練習→何人かに読ませる」という流れを組みながら実践を重ねてきた（読むことの指導）
・自分の立場にあった場面も設定し基本文を使った英文をつくらせるよう努めてきた。（書くことの指導）
・定期テストの中で、自分の立場での英文を作らせる問題を出題し「書くこと」についての定着を把握するよう努めてきた。（書くことの指導）

数学科全国標準学力テストの分析及び指導の重点　　（　１　年　）

◎　学年の学力分布状況（全体傾向をつかむ）
全体的に全国よりも低い。特に数量関係が弱い
①　標準以上の内容
・数と式　　整数と性質　　１０３％　　文字を使った式　　１０９％
・図形　　空間図形の性質　　１００％
・数量関係　　円グラフ　　１１５％　いろいろな単位とそれらの関係　１０４％
②　標準以下の内容　（中領域で全国比９０％以下の領域は）
・数と式
およその数　　７７％
・図形
平面図形の性質　　６７％　　いろいろな図形の体積、面積　８５％
・数量関係
比の性質とその利用　　５３％　　速さや平均　７２％
③　学力向上を図る指導の重点
・数と式（計算）を繰り返し演習する。
・２、３年生の関数理解につながるように、ともなって変わる量（数量関係）の指導に力を入れる。
④　分析をして小学校に知らせること（どこでつまづいているか等）
・かけ算、割り算、分数の計算をしっかりやってもらうとよい。

指導の取り組み
・レディネステスト（小学校までの学習の確認問題）を実施して実態を把握した。
・数量関係の指導として暗号文ゲームを取り入れ、座標平面上の点について理解を深めさせた。
・定期的にノートをチェックし理解度を確認しながら進めた。
・１～３年の全クラスの数学で小中教員の相互乗り入れをしたＴ・Ｔ指導をした。

(iii) 成果と課題
①学力の実態をつかむために全国標準学力テスト（国・英・数）を実施することにより、指導の不足面や生徒の学力状況が把握できた。
②全国標準学力テストのデーター分析により、標準以下の領域を重点指導を行う等の方向性が明確になった。
③全国的標準学力テストの分析交流を小学校とすることで、中学校から小学校への指導依頼等小中の連携が推進された。
④「基礎学力の向上」をはかるための「生徒の心のありかた」を追求する学級指導や道徳の実

践も深めることができた。
⑤学校新聞「やはず」や講演会を通して、保護者や生徒が学習の必要性について考えることができた。学校新聞「やはず」は村内に配布され、生徒の活動の様子が地域に知らせるとともに地域の意見や願いを取り入れ、「開かれた学校」づくりを推進してきた。

課題として
①評価については、評価規準表の作成やその活用について、さらに研究が必要である。
②全国学力標準テストの回数は１回であるが、その実施回数や費用について検討が必要である。
③少人数授業の実施において、習熟度別指導の研究を深めることが必要である。

(ⅳ) 成果の普及方策
研究紀要の配布

(ｖ) その他
小学校、中学校の合同研修会や小中教員の相互乗り入れ指導の実施